

神の道等の弱ったマツへの対応

— 極度の高温・少雨で衰弱 —



技術情報 VOL.2

(調査・検証) 一般財団法人三保松原保全研究所 R2. 10

令和2年5月以降、羽衣の松周辺や神の道で、弱ったマツが確認されています。心配される方もおられると思いますので、現状と対応についてお知らせします。

● 症状

今年新たに伸びた新葉は緑色で健全ですが、それ以外の古い葉の多くが褐変して落葉しています。当研究所では松原全域で複数本の発生を確認しており、今年特有の症状となっています。

● 原因

原因を検討するため、気象データを確認したところ、令和元年度は以下のとおり、観測史上でも極度の高温・少雨であったことが判明しました。(気象庁の清水観測点データ)

①降水量(月別)：令和元年9月は、観測史上2番目に少ない。

②平均気温(月別)：令和元年8月、9月及び令和2年1月、2月はいずれも観測史上で1番高い。

また弱ったマツは、道路沿いや周辺が舗装で覆われている場所や、尾根地形のピークである等、土壤水分や根系の伸長スペースの条件が良好ではない環境であることが多かったことから、この症状の主因は、昨年来の極度の高温・少雨による水分不足ストレスであると推定しました。

● 対応

弱ったマツには二次的に葉ふるい病※1やカイガラムシ※2が発生しているものがあり、放置すると症状が進行する恐れがあったことから、当研究所の市への報告に基づき、葉ふるい病防除として羽衣の松周辺の1本と神の道南端1本について殺菌剤の散布(7~9月計3回実施)が行われました。

現在、この2本のマツの症状は進行しておらず、小康状態であると判断しています。

主因と考えられる水分不足ストレスの回復は、症状が出てからでは対応が難しいですが、高温・少雨時に灌水することでリスクを減らすことができると考えます。今後、夏期の気温と降水量を注視し、特に今回症状が出たマツ個体は即時に処置対応できるよう準備します。

※1 カビの一種による葉の病気で、激しい落葉が生じ樹を衰弱させる。

※2 葉っぱや茎から樹液を吸う害虫。



[みほしるべ西側の弱ったマツ]